

平成 25 年度施策マネジメントシート1(平成24年度実績の評価)

作成日 平成 25 年 8 月 29 日

総合 計画 体系	政策名	Ⅱ 環境に配慮した安全・快適な生活環境づくり 《定住環境》	施策主管課	総務課
			施策統括課長	稲田 和久
	施策名	14 交通安全の推進	関係課	農林土木課、業務管理課、建設事業課、 都市建築課、自治振興課

1. 施策の目的と指標

目的	①対象(誰、何を対象としているのか)		対象指標	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	市民的	市民	A	人口	人	実績	42,428	41,917	41,159	40,548	
見込								41,159	40,548	40,440	39,949
B			実績								
			見込								
C			実績								
			見込								
交通事故に遭わない、起こさない。		A	交通事故発生件数(暦年)	件	実績	1,167	1,180	1,132	1,098		
					目標			1000未満	1000未満	1000未満	1000未満
		B	交通事故による死傷者数(暦年) (死者数、負傷者数)	人	実績	4・103	0・65	1・86	3・109		
					目標			0・80未満	0・80未満	0・80未満	0・80未満
		C	過去1年以内に運転したり、歩いたりして 危ない(ヒヤッとした)と感じたことがある市民 の割合	%	実績	72.2	71.8	71.2	68.4		
					目標			70.0	70.0	70.0	70.0
D			実績								
				目標							
成果指標設定の考え方 (成果指標設定の理由)	A)B)交通事故に遭わず、起さなければ、交通事故発生件数・交通死亡による死傷者数は減少すると考えた。 C)交通マナー、交通安全意識が向上すれば、危ないと感じることは少なくなるはずであると考えた。										
成果指標の測定企画 (実績値の把握方法)	A)総務課で把握(雲南警察署) B)総務課で把握(雲南警察署) C)市民アンケート調査で把握 「あなたは過去1年以内に自動車や自転車を運転したり、歩いたりして危ない(ヒヤッとした)と感じたことがありますか?」										
目標設定とその根拠 (基本計画策定時)	A)交通事故発生件数は様々な対策により、減少傾向にあり、今後も引き続き取り組んでいくことで更なる事故発生の抑制を図る。(＝期待値) B)死者数は、0を目指す。負傷者数は事故件数減少に比例し、減少すると見込んだ。 C)ヒヤッとした市民の割合は、現状が約70%で、既に高い水準ではないかと考え、この水準を保つこととした。										

2. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
① 交通安全意識の高揚	市民	交通安全意識を高める。	事故件数	件	実績	1,167	1,180	1,132	1,098		
② 交通安全施設の整備	市民	交通事故を防ぐことができるようにする。	交通安全施設整備箇所数 (ガードレール、カーブミラー、 区画線)	箇所	実績	29	49	60	56		
③					実績						
④					実績						
⑤					実績						

3. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	住民(事業所、地域、団体)の役割	行政(市、県、国)の役割
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各地区交通安全協会を中心に、交通安全に努める。</li> <li>●交通ルールを守り、交通マナーの向上に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●春・秋の全国交通安全運動の展開や交通事故防止の啓発などにより、交通マナーの向上を図る。</li> <li>●交通安全施設の整備を図る。</li> </ul>
②	A) 施策を取り巻く状況(対象や根拠法令、社会情勢等)は、今後どのように変化するか?(本年度を見越して) ○県内の運転免許保有者が横ばいの中高齢化は進展している。○雲南市では、高齢者の関係する人身事故が37%(人身事故件数89件中33件)で増加傾向にある。○飲酒運転等の罰則が強化され、飲酒運転による交通事故は減少傾向にある。○警察署・駐在所の統廃合が進み、指導体制が見直されている。○松江自動車道の開通に伴い、各路線の交通量のバランスが変わってきている。	B) この施策に対して、住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか? ○市民から、交通安全施設の設置(信号機、横断歩道、カーブミラー、ガードレール)や、生活道路の局部改良(カーブ改良、歩道整備等)の要望がある。

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べた成果水準)	背景・要因
<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	○交通事故発生件数は、近隣他市と比較し、人口規模を勘案するとやや少ないといえる。(松江市;7,764件、出雲市;5,987件、安来市;1155件) (人口対比:松江市3.7%、出雲市3.5%、安来市2.8%、雲南市2.8%) ○交通事故による死者/傷者数は、近隣他市と比較し少ないといえる。 (松江市;8/690人、出雲市;5/516人、安来市;4/112人)(人口対比:松江市0.34%、出雲市0.31%、安来市0.28%、雲南市0.27%)

平成25年度施策マネジメントシート2(平成24年度実績の評価)

《14 交通安全の推進》

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

時系列での比較(成果水準の推移)	
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	背景・要因 ○交通事故発生件数は、やや減少した。 ○市内では交通事故による死者が3名あり、負傷者数も若干増えた。 全国的な意識の高まりや、車の安全装備が普及したことから、県内でも発生件数及び負傷者数は12年連続減少中である。(人口10万人あたりの死者数は6.3人で全国44位) ○過去1年以内に運転したり、歩いたりして危ない(ヒヤッとしたり)と感じたことがある市民の割合は、交通安全施設の整備等を進めており、初めて目標値を達成した。

5. 施策の振り返り評価

施策の目標達成度(前年度の成果指標値に対する実績値の達成度)	
<input type="checkbox"/> 目標値より高い実績だった <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった	背景・要因 ○交通事故発生件数は、目標値1,000件未満に対し1,098件であった。 ○交通事故による死者数は3人、負傷者は109人であり、目標値以内に抑えることができなかった。また、高齢者の関係する人身事故件数は、33件(昨年23件)と全体の事故件数が減る中でも減らない状況にある。 ○過去1年以内に運転したり、歩いたりして危ない(ヒヤッとしたり)と感じたことがある市民の割合は、目標値を達成した。
基本事業	取り組んだ事務事業の総括(事務事業貢献度評価:貢献した事務事業、課題が残った事務事業)
① 交通安全意識の高揚	・雲南市交通指導員設置事業や交通指導員警察連絡協議会運営事業により、継続的に街頭指導など、交通安全意識向上への取り組みを実施したが、依然年間1,000件以上の事故が発生していることから今後も啓発活動を強化していく必要がある。・雲南市交通安全対策協議会で警察や学校、地域住民による各支部での活動との連携を図った。
② 交通安全施設の整備	・交通安全施設整備事業により、カーブミラーやガードレール、区画線などを整備した。 ・教育委員会で緊急通学路点検を実施し、国、県、市、警察で現地確認を行い、139箇所危険箇所を把握した。 ・地域から要望のあった箇所については、国、県、市、警察及び地域で現地立会を行い、必要な対策を図った。
③	
④	
⑤	

6. 今後の課題と次年度の方針(案)

区分	今後の課題	次年度の方針(案)
施策	○交通事故を減らしていく。 ○交通安全施設の整備や生活道路の局部改良等、対策を講じる必要がある。	○関係機関と更に連携し、意識の高揚を図り、交通事故の減少に努めていく。 ○交通安全施設や生活道路を計画的に整備し、安全性を確保していく。
基本事業	① 交通安全意識の高揚	○年間の交通安全運動の重点目標を定めて、雲南市交通安全対策協議会や雲南地区交通安全協会、雲南警察署、交通指導員、学校及び地域住民が連携して取り組んでいく。
	② 交通安全施設の整備	○交通安全施設を適正に整備する必要がある。 ○地域要望が多くある生活道路の局部改良について、計画的な取り組みが必要である。
	③	
	④	
	⑤	